

## 国家公務員の公務災害の分析

人事院では、平成 22（2010）年 4 月から平成 27（2015）年 3 月までの 5 年間に公務上の災害と認定された一般職の国家公務員の過労死等事案に対し、公務災害認定理由書等を基にデータベースとして取りまとめ、このデータベースを基に、脳・心臓疾患 22 件と精神疾患・自殺（以下「精神疾患等」という。）50 件の分析を行った。

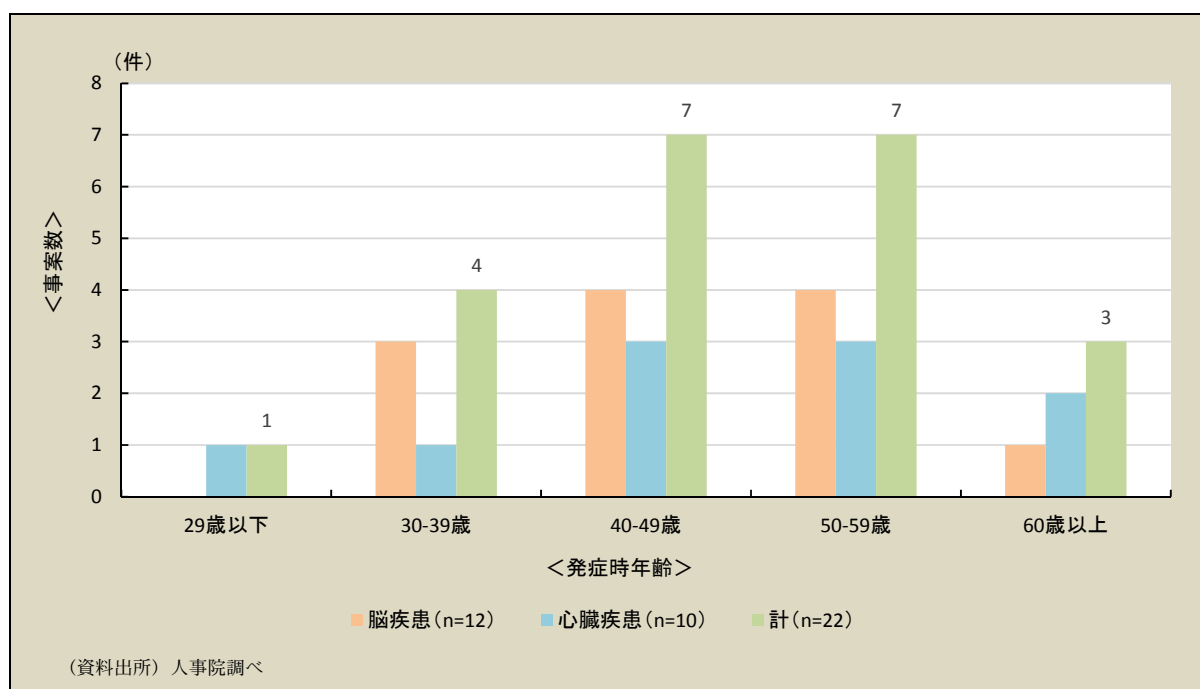
### ア 脳・心臓疾患事案

#### （ア）年齢階級別の事案数

脳・心臓疾患事案について、発症時年齢別にみると、「40～49 歳」と「50～59 歳」の事案がともに 7 件ずつで、これらの年齢層で全事案の 6 割強（63.6%）を占めた（第 1 図）。

男女別割合では、男性が 21 人（95.5%）、女性が 1 人（4.5%）であった。

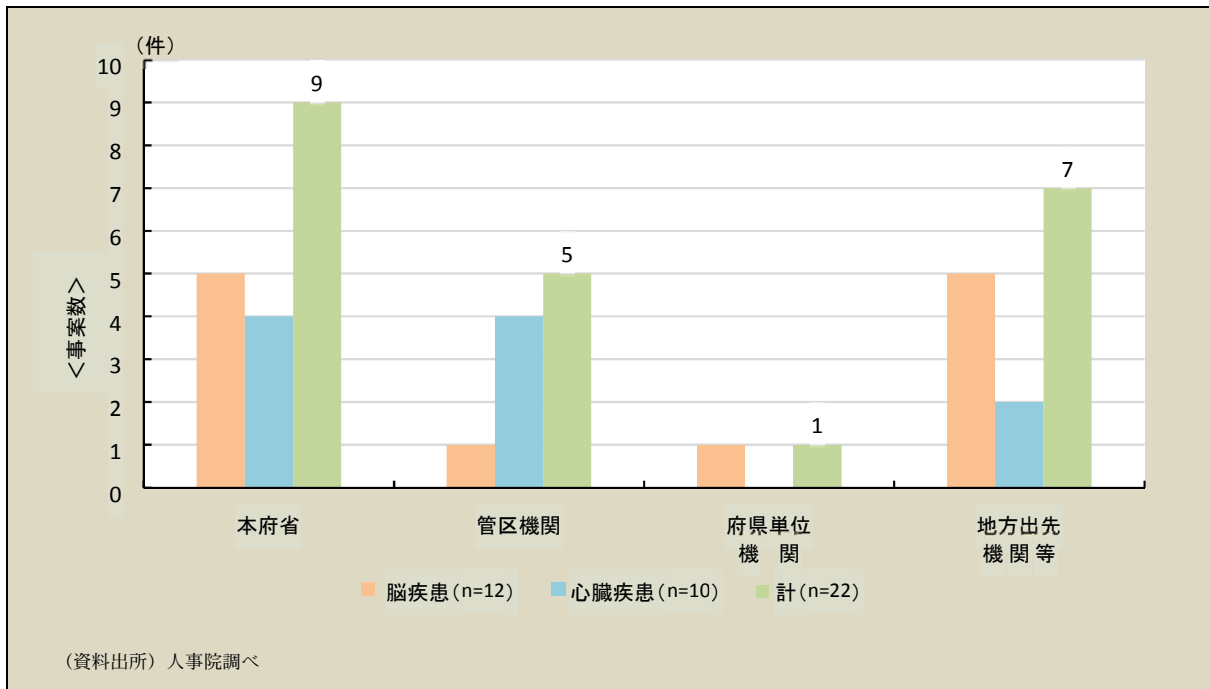
第 1 図 疾患・年齢階級別の事案数（脳・心臓疾患）



#### （イ）組織区分別の事案数

組織区分別でみると、本府省が最も多く、「脳疾患」、「心臓疾患」とともに全体の事案のほぼ 4 割を占めた（第 2 図）。

第2図 組織区分別の事案数（脳・心臓疾患）



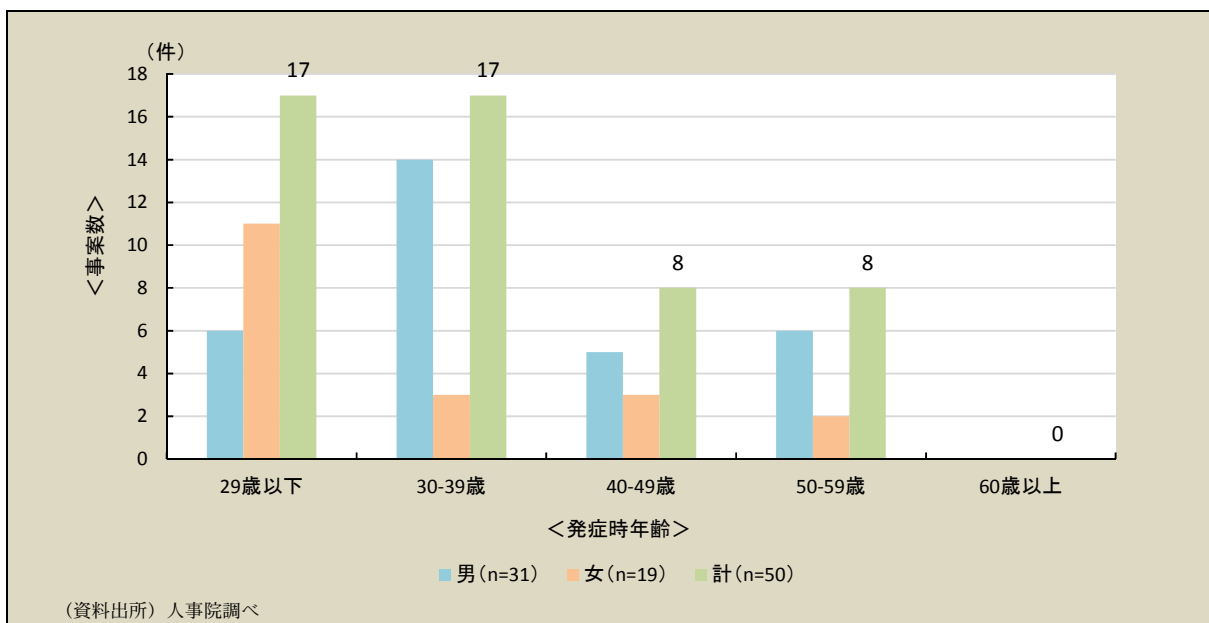
イ 精神疾患等事案

(ア) 性・年齢階級別の事案数

精神疾患等事案について、性別・発症時年齢別にみると、年齢別では「29歳以下」と「30～39歳」の事案がともに17件ずつと最も多く、これらの年齢層で全事案の7割弱（68.0%）を占めた（第3図）。

男女別割合では、男性が31人（62.0%）、女性が19人（38.0%）であった。

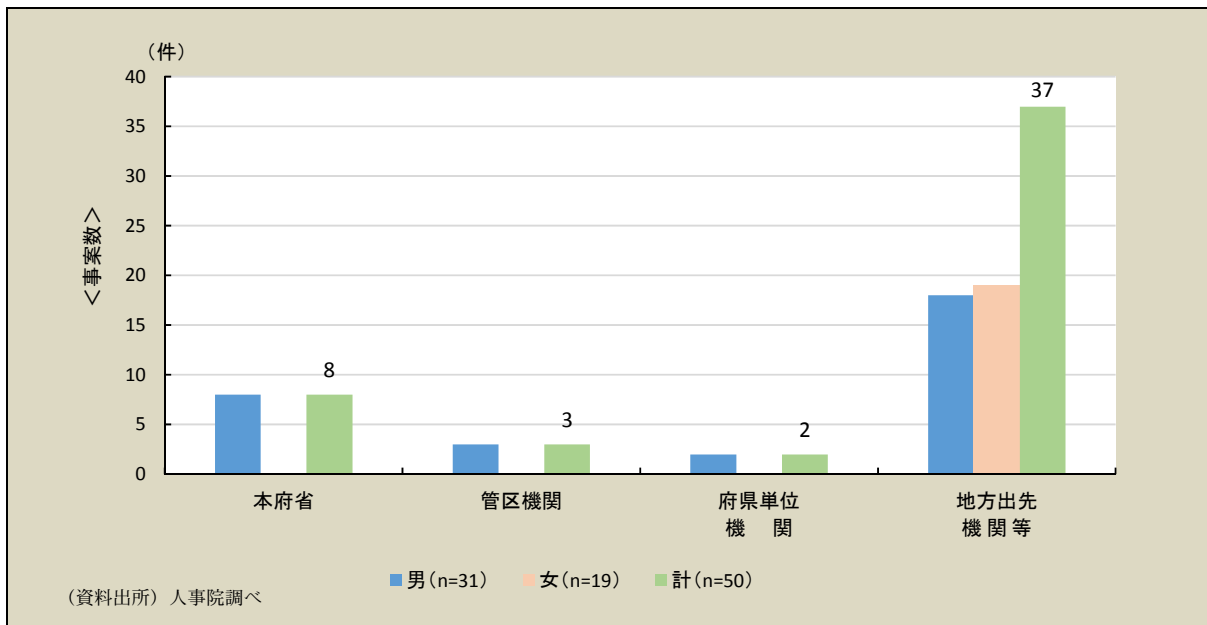
第3図 性・年齢階級別の事案数（精神疾患等）



(イ) 組織区分別の事案数

組織区分別でみると、「地方出先機関等」が37件(74.0%)で最も多かった(第4図)。

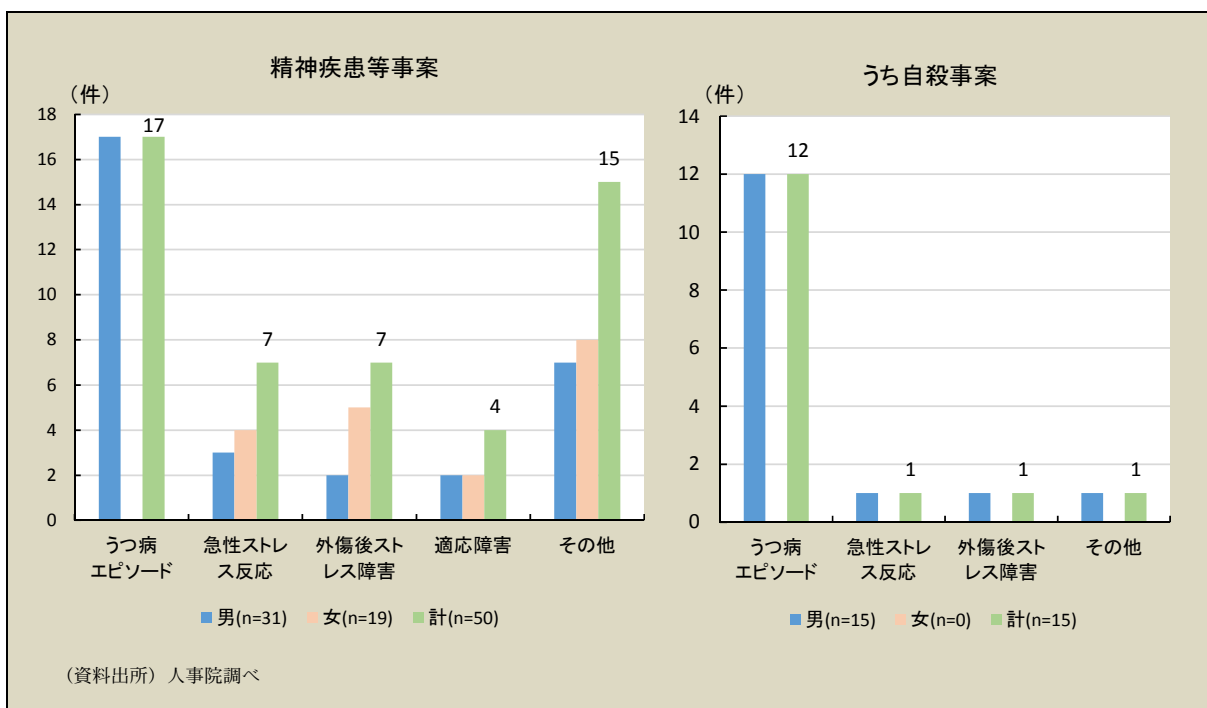
第4図 組織区分別の事案数(精神疾患等)



(ウ) 認定時疾患名別の事案数

認定時の疾患名別にみると、「うつ病エピソード<sup>注)</sup>」が多かった(第5図)。

第5図 認定時疾患名別の事案数(精神疾患等)



注) うつ病エピソードとは、抑うつ(気分の落ち込み)の症状を示す疾患。